



地域からはじめる

子ども宅食

KODOMO TAKUSHOKU

～拠点型モデル事業から得たノウハウを活かして～

制作 金沢市・金沢市社会福祉協議会



よって、もらって、つながって

「よって、もらって、つながって」
これは、私たちが運営する「拠点型の子ども宅食」の
キャッチフレーズです

食材や日用品の提供を通じて、
地域の支援者と子育て世帯のつながりが生まれ
助け合いの輪が広がっています

弁護士や心理士等の専門職による相談ブース、
子どもたちが工作などに取り組むアート・ワークショップ

小さな声を聴くことを大切に
スタッフみんなで工夫を凝らし、運営してきました

子育て世帯がもっと住みやすいまちを目指して
「金沢版」子ども宅食と一緒に取り組んでみませんか

拠点型の子ども宅食とは
（「金沢版」子ども宅食）

金沢市では、子育て世帯に対する食材や日用品の提供について、地域の拠点となる施設に取りに来てもらうことで、地域とのつながりをつくり、必要な場合には制度やサービスの利用につながることを目指し、取組を進めています。



活動の流れ 4ページ

初期の打合せから後日のふりかえりまで、活動全体の流れについて説明します。

1 関係者による打合せ 6ページ

地域の関係者による打合せから始まります。打合せで話し合うと良い事柄やポイントについて説明します。

2 フードドライブの実施 8ページ

参加者に提供する食材を集める「フードドライブ活動」に関して、実施方法や留意点等を説明します。

3 対象者への案内・申込受付 10ページ

対象者に対する案内方法及び申込受付方法について説明します。

4 当日の運営 12ページ

子ども宅食の当日に気を付けるポイントや対応の留意点等について説明します。

5 後日のふりかえり 14ページ

当日対応だけでなく、必要に応じて相談機関等によるフォローも行います。後日のふりかえりについて説明します。



本冊子に記載されている内容と連動した動画を金沢市社会福祉協議会公式YouTubeチャンネルに掲載しております。こちらも併せてご覧ください。



「拠点型の子ども宅食」活動



関係者による打合せ

フードドライブの実施

Meeting with related parties

1 関係者による打合せ

時期や段取りを決める

主任児童委員、民生委員児童委員など、地域の関係者による打合せを行います。開催の単位(校区)、スケジュール、会場の確保、フードドライブの実施、対象者へのお知らせについて決めます。



Securing ingredients food drive

2 フードドライブの実施

食材や日用品等を集める

提供する食材等を集めます。実施にあたっては、金沢市社会福祉協議会のサポートを受け、回収ボックスの設置や案内文書の作成などを行います。



Information/application reception

3 対象者への案内・申込受付

案内方法を工夫する

対象者の申込みのしやすさを考慮し、電話やメールなどで地域の主催者が受付をする方法か、金沢市社会福祉協議会がLINEを用いて受付をする方法から選択します。



の流れ



対象者への
案内・申込受付

当日の運営
(食材提供・相談対応)

後日のふりかえり
(伴走型支援)

4 当日の運営(食材提供・相談対応)

安心できる空間に

食材や日用品の提供、子ども向けワークショップの開催、弁護士や心理士などの専門職による相談ブースの設置などを通して、子育て世帯が「来てよかった」「話せてホッとした」と思えるような会場づくりに取り組みます。



5 後日のふりかえり

必要な支援につなぐ

参加者がどんな様子だったかについても確認しましょう。対応する上で気が付いたこと、心配になったことを話し合い、専門の相談が必要と思われる場合は、金沢市社会福祉協議会へ連絡し、必要だと思われる支援につなげましょう。



Operation on the day

Review at a later date

関係者による打合せ



地域の関係者や支援してくださる方との企画打合せからスタートします。「どこで?」「どうやって?」「いつまでに?」など必要な準備や進め方を話し合い、共通認識を持つことがスムーズな活動につながります。

具体的には、開催の単位(校区)、スケジュール、会場の確保、フードドライブの実施、対象者へのお知らせ等について、地域の皆さんと決めていきます。必要と思われる協議事項を以下にまとめました。

開催単位

Q どれくらいの規模で開催するの?

A 地域の特徴を考慮して「小・中学校区」で検討

地域の特徴やつながりを考慮し、活動しやすい開催単位を考えましょう。企画を進めるにあたり、地域の関係団体が集まり、協議することをおすすめします。その際は金沢市社会福祉協議会がサポートします。まずはご相談ください。

- 小学校区単位… 運営・協力者側と対象者である子育て世帯との距離感が近くなり、つながりづくりがしやすくなります。
- 中学校区単位… 食材集めや協力者の確保などを、より広範囲で進めることができます。



関係団体が集まり、協力者の確保についても話し合います



子育て世帯にとって困りごとを解決でき、ひと息つける憩いの場を提供できるよう心掛けましょう

スケジュール

Q トータルでどのくらいの期間が必要?

A 準備からふりかえりまで「4～5か月程度」

企画打合せをスタート地点として、表のようなスケジュールで進めることが想定されます。



<例>小学校区で開催する場合

1か月目	開催単位・協力団体・スケジュールの検討 開催単位の確定・会場選定・フードドライブの検討
2か月目	フードドライブ・対象者へのお知らせの検討
3か月目	フードドライブの案内確定⇒地域にお知らせ 対象者への案内作成、当日の協力者について調整
4か月目	フードドライブの実施、対象者にお知らせ⇒申込受付 当日運営の役割分担等について協議
5か月目	子ども宅食の開催、後日のふりかえり



会場の確保

Q 会場はどのような場所？

A 地域の公民館や体育館等がおすすめ

食材を提供するスペースに加え、ワークショップや相談会を行う場合はそのスペースも必要になるため、公民館や体育館、広めの貸会議室など一定程度の広さがある場所が会場の候補になります。また、駐車場を確保できる環境が望ましいです。



会場を選定する際は公共施設だけでなく、企業や事業所へ協力を打診することも選択肢になります

フードドライブの実施

1か月ほど前までに周知

食材を提供する1か月ほど前までには、地域の回覧板などで回収場所や時期についてお知らせします。

地域のイベントに合わせて効果的

公民館など住民が食材を持ち寄りやすい場所を確保し、期間を決めて(数日～数週間程度)、食材回収のためのフードコンテナを設置します。

お祭りなど多くの住民が集まる地域行事・イベントに合わせて、その会場内にフードコンテナを設置する方法も効果的です。



地域で集めた食材等は未開封、賞味期限内であることを確認して配布します

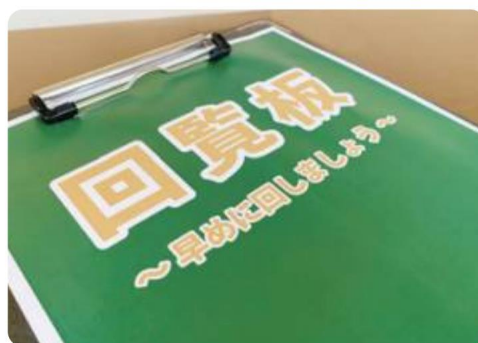
対象者へのお知らせ

回覧板などを活用しよう

地域の子育て世帯全てを対象とする方法や、ひとり親世帯などを対象とする方法があります。

地域の回覧板を使った方法のほか、学校、放課後児童クラブ、子ども会などへ依頼し、チラシの配布等に協力を得られる場合もあります。

お知らせを作る際に気を付けることなど、ご不明な点は金沢市社会福祉協議会にご相談ください。



市役所からひとり親世帯(児童扶養手当受給世帯)に案内を行う方法もあります

フードドライブの実施



活動内容と進め方が決まったら、食材を確保します。「拠点型の子ども宅食」で提供する食材はフードドライブで寄付を募り、集めることが基本です。

フードドライブとは地域住民が家庭に余っている食材を持ち寄り、福祉団体など必要なところへ寄付をする活動のことで、フードロス削減にもつながります。

集める食品

Q 食品の基準や規定はあるの？

A 賞味期限が1か月以上、未開封、常温保存

賞味期限が1か月以上先で、未開封かつ常温保存ができる食品が対象です。その他、飲料や調味料・日用品などが受付可能です。幅広く集めることで参加者にも喜ばれます。



缶詰や瓶詰、レトルト食品、ペットボトル、日用品などさまざまな品が集まります

<具体的な種類の例>

お菓子類

穀類・麺・粉製品

(玄米、精米、パックご飯、シリアル食品、麺類、小麦粉など)

調味料

(砂糖、みそ、醤油、マヨネーズ、油、カレールーなど)

インスタント食品

(ラーメン、カップ麺、お茶漬け、みそ汁、アルファ米など)

缶詰

飲料

(ジュース、水、お茶、コーヒー、紅茶、濃縮飲料など)

乾物

(海苔、かつお節、昆布、煮干し、豆類、春雨など)

粉ミルク、離乳食、介護食 など

レトルト食品

(カレー、丼など)

日用品

(シャンプー、リンス、洗剤、トイレトペーパー、ティッシュなど)

※アルコール類・自家製品(漬物など)・冷凍品・冷蔵品は受付できません。

※自家製の米は袋に入れてください。

古米は1年前までの玄米、精米に限ります。

フードドライブの周知

Q どのように周知するの？

A 共通フォーマットのチラシを活用

過去にフードドライブを実施した地域で用いたチラシの共通フォーマットを提供します。班の回覧板に添えたり、地域のイベントで配布するなどして、ご活用ください。



フードドライブ告知用のチラシ。目的や日時、食品回収の条件をわかりやすく伝えます

貸出可能なフードドライブポスト。カラフルで目立つデザインなので認知されやすい



ポストやコンテナは商業施設やイベント会場など多くの人の目に留まりやすい場所に設置

寄付の受付

Q どのような方法で食材等を受け付けるの？

A 専用のコンテナやポストを設置

地域住民が持ち寄りやすい公民館などに食材回収用のコンテナやポスト(ドラム缶)などを設置します。専用のコンテナやポストは金沢市社会福祉協議会より貸出可能です。



保管方法

Q 食材の保管はどうするの？

A コンテナや段ボール箱に入れ、常温で保管

フードドライブの期間中は、基本的に各会場で回収したコンテナに入れたまま常温で保管します。

コンテナがいっぱいになる場合は段ボール箱などに移し替えて、子ども宅食当日まで直射日光の当たらない室内などで保管します。



会場の玄関ホールなどにコンテナを設置。シャンプーなど日用品はコンテナを分けて回収



自家製の米を寄付して下さる方も。コンテナに入らない食品はコンテナのそばに置いてもらいます

回収した量が不足する場合

Q 食材が十分集まらない場合はどうすれば？

A 経費で食材を購入できる

金沢市社会福祉協議会より主催団体に対して経費を支給します。フードドライブで集まる食材の量を考慮し、提供する際に必要と思われる食材の購入に充てることもできます。詳しくは金沢市社会福祉協議会までお問い合わせください。



フードドライブを通じて地域住民に子育て世帯への関心を高めます

企業・事業所へ食品寄付を呼びかけてみませんか

食品を集める方法は、企業や事業所からの食品寄付も選択肢になります。食品を取り扱う企業などから、品質に問題はないが賞味期限が近い食品、廃棄予定の食品などを寄付していただくことはフードロス対策にもなります。地域で食品確保を考える際に、ぜひつながりのある企業・事業所などへのお声掛けもご検討ください。



自社で製造・配送・販売する食品の寄付については、経費として損金算入することができ、税制上のメリットがあります。

(認定NPO法人いしかわフードバンク・ネットと合意書を交わすと、寄付商品の受領書を発行します)

認定NPO法人いしかわフードバンク・ネット
理事 青海 万里子さん



野菜の卸売りでは、小売りに卸す過程で販売できない規格外のものや店頭からの回収品がどうしても生じます。まだ食べられるそれらの野菜を有効活用いただければと思い、寄付しています。

株式会社ベジタブル・クローバー(野菜卸売業)
代表取締役 泉 智生さん

対象者への案内・申込受付



地域の子育て世帯の中から対象者を設定し案内をします。

申込受付は、主催者や協力団体で受付をする方法と金沢市社会福祉協議会がLINEで受付をする方法があります。案内方法や申込方法によって参加者層が変わります。

対象者の範囲

子育て世帯全体でも、要件を決めて限定してもOK

対象者は「地域の全ての子育て世帯」とする方法や、「ひとり親世帯」といった特定の要件に当てはまる世帯に限定する方法があります。

対応できる人数や、対象者の範囲を設定します。



案内チラシ

気軽に参加でき、楽しい雰囲気が伝わるように作成

日時・会場・申込方法・イベントの内容を記載したチラシを作成します。写真を用いると、視覚的にわかりやすく、雰囲気も伝わります。

作成にあたっては金沢市社会福祉協議会が助言します。



過去のチラシデータも提供できます。開催概要とともに楽しい雰囲気が伝わるように意識して作成しましょう



子育て世帯と関わる団体を 活用する

回覧板、町内掲示板、公民館の広報といった地域単位の広報手段のほか、SNSによる周知があります。

対象者に「ひとり親世帯」、「多子世帯」といった要件を設ける場合は、関わりのある団体に依頼することで、効果的に案内が届くメリットがあります。

市役所から案内する

対象者をひとり親世帯（児童扶養手当受給世帯）とする場合は、金沢市子育て支援課から案内チラシを郵送できます。

郵送にあたっては準備期間を要しますので、食材を提供する2,3か月前までに金沢市社会福祉協議会または金沢市子育て支援課にご相談ください。



申込受付の方法

LINEやメールなどで申込受付を

対象者が気負わずに「参加してみよう」と思えるように、申込みは電話・FAXのみよりメール、インターネット上の回答フォーム、LINEなどの方法が便利です。

これらを使うことで、受付時の漏れやミスを防ぎ、参加人数などを管理しやすくなります。協力団体を通じて案内できるのであれば、その団体で申込みを受け付けてもらうことも有効です。

事前アンケート

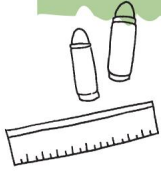
申込時に子育てにおける困りごとや悩みに関するアンケートを取ることで、参加者の状況把握や当日の対応につなげます。



LINEを利用する場合は、金沢市社会福祉協議会を通じて受付できます



当日の運営



当日は子育て世帯が「来てよかった」「話せてホッとした」と思えるように、温かい雰囲気の中で参加者を迎えましょう。

会場づくりと、参加者に対応する際に意識すべきポイントをまとめました。子育て世帯が地域や相談窓口とつながる有意義な機会とするために、参考にしてみてください。

会場づくりのポイント

1 | 食材提供コーナー

参加者が選べる工夫を

食材や日用品の配布にあたっては、品物を均等に袋などに詰めて渡す方法のほか、参加者に好みのものを選んでもらう方法があります。「レトルト食品は1家族3点まで」などと持ち帰りできる個数を、わかりやすく提示します。



持ち帰り用の袋や段ボールがあると参加者に喜ばれます

ワンポイントアドバイス

参加者がほしいものを選べる提供方法を取り入れると選ぶ楽しさが広がり満足度もアップします



参加者がゆったりと選べるようにするため、会場のレイアウトで広めのスペースを割り当てるようにしましょう



作業を通じて講師と参加者の間に会話や交流が生まれ、地域とつながるきっかけになります



「どれにしようかな」と家族で話し合い、選ぶのも楽しい時間です

ワンポイントアドバイス

身近な材料を用いた工作は準備がしやすく小さな子どもも取り組みやすいのでおすすめ

2 | ワークショップコーナー

会話や交流が生まれる

子どもたちが制作体験に取り組む間は、ブースなどをご案内して参加者とじっくり話すことができます。ぜひ企画してみましょう。

ワークショップをしてくれる方の人選については金沢市社会福祉協議会にご相談ください。

モデル事業では布を組み合わせたぬいぐるみ作り、木材を使ったクリスマスの飾りづくりなど、未就学児から小学生を対象としたワークショップを実施しました。

3 | 相談ブース

専門職に相談できる

弁護士や心理士などの専門職に相談できるブースを設置してみたいかでしょうか。専門職の人選について金沢市社会福祉協議会にご相談ください。

ワンポイントアドバイス

専門職と話す機会を提供することでより適切な支援に橋渡すことができます



参加者の中には法的な問題や子どもの発達の悩みなど、専門職や専門機関につながることが望ましい方もいます

ワンポイントアドバイス

場合によってはパーティションで仕切るなどして居心地のいい空間づくりを心掛けましょう



参加者の悩みなどをじっくり聞くために、会話の内容が他の参加者に聞こえない程度に間隔を空けてテーブルと椅子を配置します

4 | 受付・フリースペース

スムーズな受付と安心できる空間づくり

事前に予約者名、来場予定時刻、参加人数などを一覧化した名簿を用意しておき、スムーズな受付を心掛けましょう。あらかじめスタッフ間で担当する家庭を決めておき、スタッフと参加者が自由に話せるフリースペースも用意してみましょう。



歓迎の気持ちを大切に、明るい表情で参加者と向き合しましょう

参加者対応のポイント

地域の子育て世帯を温かく迎えましょう

地域ぐるみで子育て世帯とのつながりをつくり、必要に応じて制度やサービスにつなげることを目指す取組です。来場した子育て世帯を「ようこそ」という気持ちで温かく迎え、親身に接しましょう。

共通する話題から会話を広げる

食材選びやワークショップに寄り添いながら、暮らしの困りごとや悩みなどを把握しましょう。学校や普段の買い物など、共通する地域の話題から会話を広げるのも1つの手法です。



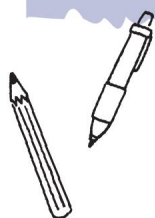
質問は控えめに、相手のペースに合わせて話しましょう

聞き取り内容を記録する様式を活用しましょう

参加者の思いや対応の必要度などを書き込める「聞き取り内容記録用紙」の様式を金沢市社会福祉協議会より提供できます。

様式の一部。各項目を順に聞き取ることで、具体的な助言や情報提供をするための一助になります

後日のふりかえり



当日の運営がスムーズだったかという観点に加え、参加者の様子や対応を通じて気付いたことを確認します。参加者を応対する中で心配に感じたことをふりかえり、専門の相談窓口につなぐ必要性について話し合います。ふりかえりにあたっては、金沢市社会福祉協議会も協力します。

ふりかえりをもとに、必要と思われるのに制度や相談窓口につながないご家庭などの、つながりづくりを目指しましょう。

ふりかえりのポイント

参加者にどのような対応ができたか確認しましょう

食材提供コーナーで準備した品物をもれなく提供できたか、ワークショップコーナーを楽しんでもらえたか、相談ブースを案内できたかなど、参加した子育て世帯に対してどのような対応を行うことができたかをふりかえります。



対応内容のふりかえりをして、その後のつながりづくりを行いましょう



応対時の参加者の声を記録できるよう、記録用紙等を活用しましょう

参加者の声を共有しましょう

参加者の率直な声を残すことも、その世帯へのサポート方法の検討やイベント全体の改善に有効です。

聞き取り内容を記録する様式にアンケートを設け、食材をお渡ししたことへの感想や、地域の方々とのコミュニケーションについての感想などを聞き取って記入し、ふりかえりの機会にスタッフ間で共有しましょう。



世帯ごとに現状やニーズが異なるので、参加者ごとの声に耳を傾けて寄り添う姿勢が大切

継続的な支援について一緒に考えます

対応をふりかえるなかで、専門職による継続的な相談や支援の必要性を感じるご家庭があれば、金沢市社会福祉協議会へ連絡ください。

対応を一緒に考え、必要に応じて適切な機関へつなぎます。例えばNPO等による見守り支援につなげることがあります。

主な相談のつなぎ先

- ・金沢市役所 子育て支援課 児童家庭相談室(子どもソーシャルワーカー) 076-220-2422
- ・金沢市社会福祉協議会 地域福祉課(支え合いソーシャルワーカー) 076-231-3571

みんなの声

参加者の声

地域の行事や子育て支援の
情報をもっと知りたい

物価高なので食材を
もらえるとても
助かります

会場に行くまで不安だったけど
子育てや生活の困りごとを
いろいろ相談できてよかった

近所の子ども食堂の
情報がもらえてよかった
今度参加してみたい



支援者の声

子どもがワークショップに取り組む間
お母さんとじっくり話げできた

食材の確保では
企業からの寄付が増え
次第に充実していった

一歩を踏み出すことで
手助けしてくれる人が
たくさんいることに
気づいてくれるとうれしい

同じ地区の子育て世帯と話す
きっかけになってよかった
これからも続けてほしい



よって、もらって、つながって



発行
令和6(2024)年2月
金沢市こども未来局子育て支援課
社会福祉法人金沢市社会福祉協議会地域福祉課